

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 共栄の郷		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成26年2月7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型の特徴を活かすべく地域の小中学校や幼稚園との交流に力を入れており、小学校6年生3クラスから各ユニット10名ずつ2回の訪問と、小学校主催のお祭にも参加している。又、中学校は1年生と3年生それぞれ1回ずつ体験学習を受け入れている。さらに、今年度から地域の幼稚園との交流が始まり春の運動会に次いで2月中にお遊戯と太鼓の演奏を披露していただくことになっている。
・ひと月に1～2回のお好みパンの日を設定して、隣接するパン屋さんや隣家の息子さんらが経営するパン屋さん、北ひろしま福 社が運営するパン屋さんからパンを購入し、地域住民との繋がりを大切にしている。
・昨年の春、小樽高等支援学校からこの地域に住む生徒さんについて、実習生としての受け入れが可能かとの打診を頂き、法人とも協議の上、実習の受け入れをする事となった。その後、適性を考慮して、今年3月の卒業後、障害者枠での雇用が内定している。
・運営推進委員の協力もあり地域の行事には必ず声をかけていただき参加できるような関係性ができている。
・地域にある大学で福祉の勉強をしている学生をアルバイトとして採用し、大学の休みを利用して勉強を兼ねて勤務しており、若い人材を育てる環境を作っている。
・スタッフが休みの日でも遊びに來たいと思える職場となり、子供を連れて入居者様とのひと時を一緒に楽しんでくれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 共栄の郷」は、JR北広島駅からバスで数分程の幹線道路に面したバス停近くに立地している。近隣には小学校やパークゴルフ場、公園や商店なども多く、生活環境に恵まれた事業所である。北広島市や町内会のお祭りに積極的に参加するなど、地域との交流も深められている。また、今年度からは近隣の幼稚園の運動会に出かけたり、子供たちの太鼓演奏の見学を予定するなど、新たな交流も行われている。運営推進会議の開催時に、町内会役員の参加依頼を市役所の担当者から声をかけて頂くなど、市役所との連携も深められている。法人のバックアップ体制の下、マニュアルや研修体制も充実しており、職員のスキルアップにも取り組んでいる。昨年度着任した管理者は、新しい視点でしっかりした方針の下、運営やケアを見つめ直しながら、職員と共に同じ方向性を持って利用者中心の生活を支えている。年間を通して多くの外出行事を行い、来年度は更に遠出の外出を予定するなど、新たな活動にも積極的に取り組んでいる。生活援助計画書や生活日誌に利用者の変化を詳細に記録して本人の意向を尊重したケアプランを作成しながら、危険がない限り行動を制限しない「ノー」と言わないケアを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(1Fいぶきアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時のオリエンテーションで理念についての説明を受けており、ホーム内にも事業所理念を掲示しているほか、各スタッフのネームの裏側に理念を記載した物を入れており、常に意識した姿勢で業務に臨んでいる。	事業所理念とケア理念の項目に、地域との関わりを意識した地域密着型サービス内容が含まれている。勉強会で再確認したり、事例に沿ってケアの内容と照らし合わせながら、全職員で実践できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年月を重ねるごとに地域の方々からも認識され、事業所としても積極的に地域と関われるよう、小中学校を始め幼稚園との交流や地域での催しには意欲的に参加している。	今年度から幼稚園との交流を新たに始め、運動会の見学に出かけている。今年度中に、太鼓演奏の見学も予定している。町内会のお祭りやジンギスカンパーティー、北広島ふる里祭りなども民生委員から情報をもらって利用者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は認知症110番の家の登録をし、玄関にポスターを掲示している。又、入居の問い合わせなどがあった場合は先方の都合に合わせ必ず面談し、認知症の家族を持つ方の気持ちに沿えるよう話を傾聴し可能な限りのアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では運営推進委員の方からの貴重なご意見を頂戴する事ができ、行事の企画や、入居者様との関わりの際に役に立つ情報として活かせてきている。	町内会関係者や数人の家族も参加して、事業所報告や外部評価報告、災害対策などについて2か月毎に実施している。開催案内と議事録も全家族に送付している。今後は、参加できない家族の意見も会議に活かしていきたい意向を持っている。	年間テーマを事前に設定して家族に案内するなど、参加できない家族の意見収集にも繋がるような工夫を期待したい。また、参加できない家族にも会議の内容が解るように、議事録に質疑応答なども加えるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム部会などで市の担当者からのアドバイスを受け、又分からない事は気軽に相談できる関係を構築している。	デイサービスと合同のバーベキューパーティーに、市役所や地域包括支援センター職員も参加している。事故報告書の記載内容のアドバイスや、町内会役員に運営推進会議への参加依頼の声かけをしてもらうなど、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束についての指針とマニュアルを掲示している。又、事業所内の勉強会で事例検討を含む研修を行い拘束防止に対しての意識を高めている。玄関の施錠についてはDSとの複合施設である事と、施設が幹線道路に面しており万が一の危険防止の為一番外の扉のみ、施錠している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を含む、身体拘束廃止マニュアルを整備している。新人職員には、日々のケアの中で事例に沿って具体的に説明したり、勉強会で学びを深めている。建物の玄関は、安全面に配慮して日中も施錠しているが、事業所玄関は夜間のみ施錠にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修、外部研修の他、事業所内の勉強会での事例検討などで不適切なケアを含めた虐待防止の意識を高めている。又、虐待の事実を確認した場合通報の義務がある事も周知している。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修の他、今年度は市内の介護事業所のサービスネット主催で権利擁護についての研修を行い、多数のスタッフが参加した。又、参加できなかったスタッフには後日研修の資料を配布し、勉強会などで伝達講習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に契約書、重要事項説明書に沿った説明を行い、不安や疑問についても分かりやすい説明をし理解、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に対するご意見を頂戴すべくアンケートを年に1回は必ず実施する他、玄関に設置してあるご意見箱を利用しご家族様のご意見を頂戴しており、又、それを踏まえた運営を行っている。	法人の処遇改善委員会でアンケート項目を検討して、各事業所毎に年1回家族アンケートを実施している。家族の意見や要望は、生活記録や支援経過に記録しているが、更に職員間で共有できるような記録方法を検討する意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他年に2回の個人面談等で、全体的あるいは個別にスタッフの意見を聴く機会を持っているがそれ以外でも何かしら意見がある時は管理者に直接、あるいはユニットの責任者やリーダーを通して伝えやすい環境を作っている。	管理者は、日頃から職員の意見や提案に耳を傾けて業務の流れと一緒に検討したり、ミーティングや勉強会でも各職員が発言できるように配慮している。行事や誕生会などの係を分担しながら、職員も運営やケアに熱心に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価、目標設定と反省、管理者からの評価等を法人に報告し、今年度はその評価に基づいて時給もアップしている。又、法人からは、事業所独自の評価によりその能力に応じた条件の改善を検討する事も視野に入れるよう指示されており、今後実践する予定である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修については法人からも積極的に参加するよう指示されており、外部研修については希望により、交通費や研修費用を法人が負担し、研修を受けやすい環境にある。又、研修の日程によりシフトを調整したり、毎月の勉強会でスキルアップの機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護事業所によるサービスネットワークやGH相互の見学交流を通じて意見交換やサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面談し、様子観察をしながら現在の困りごとや入居してからどのような生活を送りたいかを傾聴し、安心して入居いただける関係を築けるよう努めており、入居後も個別に傾聴する機会を多く持ち、不安や心配を解消できるよう関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に来た時から、不安や心配ごとに対して十分に傾聴し、可能な限りのアドバイスをさせて頂き、入居決定から入居に至り、さらに入居後も適宜相談しやすい関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来た時から現在の状況の把握に努め、複合施設内や法人内外の各サービスの説明も行い、入居後も法人内の各事業所と連携を図りより良い支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今年度の実践者研修にユニットから2名のスタッフが参加したことでスタッフの意識が格段に高まり、それまで諦めていたことも入居者様に積極的に働きかけることで今まで以上に家事などに入居者様が参加する機会が増えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度、ご家族様から外泊を含む葬儀への出席について問い合わせがあった時、ご家族様の支援のもとでの出席の意義を強く主張したことで、ご家族様の意識も変わり、ともに支える関係であることをご理解いただいたうえで感謝の言葉をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外にも友人や職場の仲間が訪ねてきやすい環境づくりをしているが、ご家族様以外の面会はまだない。	以前の仕事関係や近所に住んでいた知人が来訪する利用者もあり、居室で一緒に過ごすこともある。また、知人から手紙や絵手紙が届いた時は、返信するように声かけしているが、だんだん難しくなってきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出の際や行事の際に仲のよい入居者様の座席を近くにしたり、同じグループで外出できるよう配慮している。また意思の疎通が難しい方が多い中でも、入居者様同士の会話がスムーズに進むようスタッフが仲介役となるよう意識している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了時にも、今後も気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けをし、いつでも相談や支援ができるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が困難な入居者様が多いため普段の様子を観察しながら、表情がよくなる時の行動を振り返り、ケアプランに反映している。	現在は、仕草や表情などから把握する事が多く、新しく得られた情報はその都度口頭で伝えたり、連絡ノートや生活援助計画に記録して職員間で共有し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時や、ご家族様からの情報をもとに生活歴などを把握し、また、日々の会話の中からもたくさんのヒントを頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を様子観察し、必要に応じてミーティングを開き、職員間で情報共有し一緒に検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングや毎月行っているケース検討会などで職員間での情報共有をし、意見を出し合っケアプランに反映している。	利用者の変化をその都度記録している生活援助計画書や生活日誌を基に、3か月毎にモニタリングを行っている。焦点情報シートを活用して利用者の状況を把握し、家族や本人の意向を踏まえながら6か月毎に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡ノートに日々の変化などを書き込んでいるほか申し送りなどでもスタッフ間で情報共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に対応できるように併設するデイサービスやリハビリの専門職、主治医との連携を図れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園や小中学校との交流、地域行事への参加やボランティアの受け入れなどにより、より豊かな暮らしを実現できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月2回の訪問診察のほか、体調不良や身体的変化に24時間体制で医療機関の支持が受けられるよう支援している。	専門医はかかりつけ医を継続しているが、職員が殆ど受診支援を行い、日頃の健康状態を医師に伝えている。家族が受診支援する場合は、変化を書面にして持参してもらうようにしている。	

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師や併設するデイサービスの看護師に相談し24時間体制で支持が受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書や情報提供書により、医療機関との連絡相談を密にする他、入院時も極力面会回数を増やし、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に重要事項の説明として重度化や終末期についても文書と口頭で行っている。	看取り介護の視点を含む「重度化に関する対応指針」を作成して、利用開始時に説明している。常時医療行為が必要になった場合は、事業所での対応は難しい旨を伝えている。主治医の判断の下、家族の意向に沿って看取りも行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網と、連絡系統のフローチャートを作成し、勉強会を行っている。また、避難訓練時に救急隊員から救命処置とAEDの使い方の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練に地域住民の方にも参加して頂いており、また参加できなくても災害の際の避難所として場所を提供して下さるという近隣の商店の声もあるが、救急連絡網に記載できるまでには至っていない。	消防署の協力の下、デイサービスと合同で、日中の地震による火災を想定して避難訓練を実施している。事業所独自で夜間の火災を想定した避難訓練と、地震の資料を基に勉強会も行っているが、備蓄品の整備、職員の救急救命訓練の受講はまだ十分とは言えない。	事業所として、災害時に必要なリスト表などを作りながら、法人と検討して備蓄品が整備されるように期待したい。また、職員の救急救命訓練が定期的な受講されるように期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や個性を理解し、人格を尊重しプライバシーに配慮した関わりを心掛けている。	職員は「否定的な言葉は言わない」との方針を意識して利用者の気持ちに沿っている。個人的な事は居室で話し合い、記録する時も利用者から離れた場所で行い、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定や意思表示をしやすいように自由な発言を促しており、困難な方には、二者択一などのクローズドクエッションで本人の決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今年度業務の見直しを図り、今まで画一的になりがちだった口腔ケアやトイレ誘導の時間などを、入居者様のペースに合わせるよう改善している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特におしゃれが好きな入居者様には、ゆっくりと洋服を選ぶ時間を作ったり、口紅を塗ることを促したりしている。意思表示ができる方には洋服を自分で選択していただいている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味見や盛り付けなどを行って頂ける様一人一人の適性を判断しながら関わっている。片づけには以前よりも多くの入居者様が参加できるようになった。	管理栄養士が作成した調理法を変更したり、在庫の食材を活用して好みの料理を作ることもある。献立を中止して、誕生日には担当職員が利用者と話し合いメニューを計画している。月2回はパン食も取り入れている。会話を楽しみながら職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自主的に水分を摂れる方が少ないため水分摂取量には特に注意している。足りない方にはゼリーなどを提供し不足分を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人のペースに合わせて口腔ケアを行えるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	今年度日中リハパンを使用していた方を布パンツに変更しようという試みを実施しており、現在1名の方が成功している。その結果皮膚疾患が格段に改善された。トイレ誘導は本人のペースと時間ごとの誘導を併用して行っている。	声かけや誘導の必要な方の排泄をチェックし、立位が保てる時は夜間もトイレに誘導している。日中は出来るだけ綿パンツで過ごせるように取り組んでいる。本人の意志を確認して排泄を支援し、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料の導入や運動、水分量の管理を行っても排便が困難な方もおり、医師に上申し整腸剤の服用を含めた支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自ら入浴を希望される方はいないが、スタッフが声掛けすることで皆さん気持ちよく入浴を楽しめるよう支援できている。	日曜日を予備日とし、希望の曜日より順番に合わせて週2回以上の入浴を支援している。入浴の拒否が強い方は家族とも相談し、納得を得て入れるように対応を試みている。浴槽の出入りに職員が2人で介助し、安心して湯船に浸かっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間通して休みたいときに、いつでも居室で休息がとれるよう支援している。また、リビングのソファを利用して、休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイル、薬情ファイルのほか、緊急時のための「傷病者情報」と薬情をセットにしたファイルを作成してスタッフ全員がその把握に努めており、変化があったときは、「今日の薬」で調べる自主性もみられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に今年度は「少しのお手伝い」でできることを増やそうと、スタッフの意識が高まり、入居者様の家事への参加が増えたことで役割や達成感、気分転換を図る機会につながっていると感じる。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季間を除いてゴミ出しや畑作業、散歩などに声掛けをしているが比較的歩行が安定している方や本人から希望される方に偏ってしまっていることは否めない。	散歩の他、畑や花壇づくりを楽しみ、日常的に外気に触れている。羊ヶ丘展望台やビール園などの外出行事の機会に食事をするなど、月に1回は外食を楽しんでいる。新千歳空港を見学したり、地域の行事に参加するなど、頻繁に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方にはご家族様と相談の上、少額のおこづかいを自己管理していただいている。また、外出時には可能な方にはレジでの支払いを自分で行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフからの声掛けで電話を使用することができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事を行った際の写真などをレイアウトして共有の空間に飾っている。	建物内のグループホームの玄関はレースカーテン風のガラスの引き戸で、床は畳風のクッションフロアになっており、和風の落ち着いた空間になっている。窓からの日差しが強い時は、カーテンで採光を調節している。壁には季節の装飾や作品等が貼ってあり、温かい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の人間関係を踏まえた座席の配置にしており、リビングのソファで休むこともできるよう声掛けし、利用していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際になるべく馴染みの物を持参していただけるようお願いしており、それぞれに使いやすいものを使いやすい配置で利用されている。	居室前にスポットライトを取り付けて夜間も安全に移動が出来るように工夫している。居室には冷蔵庫付の台を用意している。馴染みの家具類の他、大きな仏壇、鏡台、小ぶりの植木鉢、小物類等を持ち込み、個性的な居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表れをかけ、洗面所や流し台の蛇口もレバーひとつで操作でき、お湯の温度も適温になっている。浴室は火傷やケガのないよう手すりや滑り止めマット、バスボードなどを準備している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 共栄の郷		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成26年2月7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F いぶき」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2Fうらら アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時のオリエンテーションで理念についての説明を受けており、ホーム内にも事業所理念を掲示しているほか、各スタッフのネームの裏側に理念を記載した物を入れており、常に意識した姿勢で業務に臨んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年月を重ねるごとに地域の方々からも認識され、事業所としても積極的に地域と関われるよう、小中学校を始め幼稚園との交流や地域での催しには意欲的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年認知症110番の家の登録をし、玄関にポスターを掲示している。又、入居の問い合わせなどがあった場合は先方の都合に合わせ必ず面談し、認知症の家族を持つ方の気持ちに沿えるよう話を傾聴し可能な限りのアドバイスをを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では運営推進委員の方からの貴重なご意見を頂戴する事ができ、行事の企画や、入居者様との関わりの際に役に立つ情報として活かせてきている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム部会などで市の担当者からのアドバイスを受け、又分からない事は気軽に相談できる関係を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束についての指針とマニュアルを掲示している。又、事業所内の勉強会で事例検討を含む研修を行い拘束防止に対しての意識を高めている。玄関の施錠についてはDSとの複合施設である事と、施設が幹線道路に面しており万が一の危険防止の為一番外の扉のみ、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修、外部研修の他、事業所内の勉強会での事例検討などで不適切なケアを含めた虐待防止の意識を高めている。又、虐待の事実を確認した場合通報の義務がある事も周知している。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修の他、今年度は市内の介護事業所のサービスネット主催で権利擁護についての研修を行い、多数のスタッフが参加した。又、参加できなかったスタッフには後日研修の資料を配布し、勉強会などで伝達講習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に契約書、重要事項説明書に沿った説明を行い、不安や疑問についても分かりやすい説明をし理解、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に対するご意見を頂戴すべくアンケートを年に1回は必ず実施する他、玄関に設置してあるご意見箱を利用しご家族様のご意見を頂戴しており、又、それを踏まえた運営を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他年に2回の個人面談等で、全体的あるいは個別にスタッフの意見を聴く機会を持っているがそれ以外でも何かしら意見がある時は管理者に直接、あるいはユニットの責任者やリーダーを通して伝えやすい環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価、目標設定と反省、管理者からの評価等を法人に報告し、今年度はその評価に基づいて時給もアップしている。又、法人からは、事業所独自の評価によりその能力に応じた条件の改善を検討する事も視野に入れるよう指示されており、今後実践する予定である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修については法人からも積極的に参加するよう指示されており、外部研修については希望により、交通費や研修費用を法人が負担し、研修を受けやすい環境にある。又、研修の日程によりシフトを調整したり、毎月の勉強会でスキルアップの機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護事業所によるサービスネットワークやGH相互の見学交流を通じて意見交換やサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面談し、様子観察をしながら現在の困りごとや入居してからどのような生活を送りたいかを傾聴し、安心して入居いただける関係を築けるよう努めており、入居後も個別に傾聴する機会を多く持ち、不安や心配を解消できるよう関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に来た時から、不安や心配ごとに対して十分に傾聴し、可能な限りのアドバイスをさせて頂き、入居決定から入居に至り、さらに入居後も適宜相談しやすい関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来た時から現在の状況の把握に努め、複合施設内や法人内外の各サービスの説明も行い、入居後も法人内の各事業所と連携を図りより良い支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作から家事や買い物に至るまで、残された能力を発揮できるようスタッフがそのお手伝いをしているという姿勢で日々生活を送っており、一緒に作業をした後は必ず感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援に対するヒントはご家族様が持っていると考えており、ご家族様の思いが反映できるよう面会時などに普段の様子を伝えながら、お話を伺う機会を作っている。また、こちらから相談の電話をすることもあり、一緒に考え支えていくという関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外にも友人や職場の仲間が訪ねてきやすい環境づくりをしており、実際に面会に来ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士の人間関係を把握しており、日ごろのリビングでの席を近くしたり、外出行事の際のグループ分けや座席などにも配慮している。また、入居者様同士がお互いの居室を行き来している様子も頻回にみられる。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了時にも、今後も気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けをし、いつでも相談や支援ができるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは主訴が何かを考え本人が望む暮らしや、今本人が望んでいることを普段の会話の中から探し出すようにしている。また、困難な場合は日常生活でどんな時に笑顔が見られるかを観察し把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時や、ご家族様からの情報をもとに生活歴などを把握し、また、日々の会話の中からもたくさんのヒントを頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を様子観察し、必要に応じてミーティングを開き、職員間で情報共有し一緒に検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活記録の記入の際ケアプランに、スタッフの気付きを自由に書き込むようにしており、普段の様子が誰でもわかり易くなっており、日頃から提案があれば計画作成者に提案できる環境を作っている。また、面会時にご家族様の意向もうかがうよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランに日々の変化などを書き込んでいるほか申し送りなどでもスタッフ間で情報共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に対応できるように併設するデイサービスやリハビリの専門職、主治医との連携を図れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園や小中学校との交流、地域行事への参加やボランティアの受け入れなどにより、より豊かな暮らしを実現できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察のほか、体調不良や身体的変化に24時間体制で医療機関の支持が受けられるよう支援している。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師や併設するデイサービスの看護師に相談し24時間体制で支持が受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書や情報提供書により、医療機関との連絡相談を密にする他、入院時も極力面会回数を増やし、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に重要事項の説明として重度化や終末期についても文書と口頭で行っている。また、1月13日に入居者様が急逝した時にはご家族様の要望で一晩ご遺体をホームに安置し入居者様とスタッフ全員で翌日お別れすることができ、ご家族様からも大変喜んで頂けた。葬儀は地域の斎場で行われた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網と、連絡系統のフローチャートを作成し、勉強会を行っている。また、避難訓練時に救急隊員から救命処置とAEDの使い方の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練に地域住民の方にも参加して頂いており、また参加できなくても災害の際の避難所として場所を提供してくださるという近隣の商店の声もあるが、救急連絡網に記載できるまでには至っていない。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や個性を理解し、人格を尊重しプライバシーに配慮した関わりを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定や意思表示をしやすいように自由な発言を促しており、困難な方には、二者択一などのクローズドクエッションで本人の決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者様が自分の時間を自由に使えるよう、毎日のレクも自由参加としており、家事への参加も本人の意思を確認し気分が乗らないときは気兼ねなく休んでいただける環境を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ時や、整容の際に助言をしたり、その日の服装に「よく似合いますね」「いい色ですね」などと声掛けするようにしているが、拒否されるケースも少なくない。外出行事の際は皆さんにおしゃれをして頂ける様促している。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなども決まり事ではなく、本人の自主性に任せ、得意な方をお願いするようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量が足りないときは好みのものを提供したり、持病などから制限のある方にはさりげなく個別の管理をしている。また、入れ歯の状況や嚥下の状態に合わせて食事の形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には毎食後口腔ケアできるようかかわっているが、動作が自立していて拒否が強い方には、朝と夜だけでも行っていたりできるよう配慮し、昼食後は本人に任せている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在日中リハパン、夜間紙おむつの方が1名いるが、日中は失禁していても必ず時間ごとのトイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールのため全員に毎朝乳酸菌飲料を提供するようになり、下肢の状態から運動が困難な方には、朝食後など決まった時間にトイレ誘導した際にゆっくりと排泄できるよう余裕を持った対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜勤帯を除いて曜日や時間帯に関係なくいつでも入浴可能となっており、入浴の拒否が強い方にも自分で納得して入って頂けるまで何度も声掛けはするが決して無理強いはしていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間通して休みたいときに、いつでも居室で休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイル、薬情ファイルのほか、緊急時のための「傷病者情報」と薬情をセットにしたファイルを作成してスタッフ全員がその把握に努めており、変化があったときは、「今日の薬」で調べる自主性もみられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の様子や生活歴から本人の自尊心を尊重して、皆の役に立っているという満足感を味わってもらえるよう個々の特性を踏まえて役割や楽しみ、気分転換の機会を設けている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季間を除いてはいつでも気軽に外に出られるよう本人の要望がない時も天候を見ながら積極的に声掛けをしている。また、ご家族様にも入居者様の希望に添えるよう協力をお願いするケースもあるが、外出に地域の方の協力をお願いするには至っていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方にはご家族様と相談の上、少額のおこづかいを自己管理していただいている。また、外出時には可能な方にはレジでの支払いを自分で行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望があるときはその方に必要な支援をしている。手紙についても返事を出してはどうかと声掛けするが文字が書けなくなってきており、実践には至っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはなるべく季節に合ったものや、行事の際の写真など入居者様に喜んでいただけそうなものにするよう配慮している。トイレ内も予備のペーパーがたくさんあると混乱するようなので、頻回に巡回しホルダーにセットされていることを確認するなど工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやいすの配置、座席が気の合った方が近くに座れるように配慮し思い思いに過ごせる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際になるべく馴染みの物を持参していただけるようお願いしており、それぞれに使いやすいものを使いやすい配置で利用されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をかけ、洗面所や流し台の蛇口もレバーひとつで操作でき、お湯の温度も適温になっている。浴室は火傷やケガのないよう手すりや滑り止めマット、バスボードなどを準備している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 共栄の郷

作成日：平成 26年 3月 8日

市町村受理日：平成 26年 3月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	現在運営推進会議にご参加いただけるご家族様が少しでも増え、そのご意見をケアや運営に活かしていけるよう、より多くのご家族様にご参加いただけるような新たな取り組みが必要と考える。	ご家族様とともに支えるケアの実現を目指し、今まで以上にご家族様とのつながりを重視すべく、運営推進会議へのご参加を積極的に推進し、GHの取り組みをご理解いただき興味を持っていただけるような働きかけをし、一人でも多くのご家族様の参加とご意見の収集に努めたい。	運営推進会議の年間のテーマを年度初めにご案内し1年に1回でも2回でも予定を組んでご参加いただける体制を整える。さらにテーマについても、簡単な勉強会のような形で、「参加してみたい」と思っていたけるようなテーマ設定を行っていきたいと考える。	1年
2	35	年に2回の避難訓練は実施しておりそのうち1回はDSと合同で地震を想定して行っているが、備蓄品の整備や、スタッフの救急救命訓練への参加が思うように進んでいない。今年度は避難訓練時に救命処置の方法とAEDの使い方の簡単な講習を受けたのみである。	備蓄品の整備と全スタッフの救急救命訓練の受講。	備蓄品についてはスタッフと協議し必要な物品をリストアップし法人とも連携しながら速やかに整備を進めていきたい。救命訓練については北広島市消防署で毎月行っている講習会にスタッフが交代で受講できる体制を作り、全スタッフが受講できるように勤務調整を行っていきたい。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。